

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	大山誘客受入強化事業			事業番号	24-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	石田 康弘	商工観光課	志村 政昭	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち	
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり	
		施策展開の方向	11	多くの人を訪れる賑わいのあるまちをつくる	
		施策	24	魅力ある観光の振興	
予算事業名	大山・日向地域活性化推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	—
関連法令等					
国・県の計画等	神奈川県観光振興計画		計画期間	令和元年度～令和3年度	
関連個別計画	大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～		計画期間	平成30年度～令和4年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	大山地域は、豊かな自然環境と貴重な歴史的資源を有する地域ですが、首都圏近郊という立地条件にも関わらず年々宿泊客は減少し日帰り観光客が中心となっています。令和元年度には、伊勢原・大山インターチェンジが開通し交通条件の飛躍的な向上が図られるとともに、令和3年度には東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が予定されるなど、本市のPRと来訪者への受入態勢の整備に係る効果的な取組が求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	県の新たな観光の核づくり事業の認定を受けた「平成大山講プロジェクト」を推進し、大山・日向を中心とした丹沢大山の地域振興や国際観光地づくりを進めます。また、日本遺産に認定されたストーリーを構成する歴史・文化遺産や豊かな自然といった地域資源を活用した魅力づくりと効果的な情報発信を行うとともに、民間資本を活用した旅館街等のリノベーションに向けた研究を進めます。				
主な対象 (誰・何を対象に)	国内外から大山、日向地区を訪れる観光客等				
事業内容 (手段、手法など)	「平成大山講プロジェクト」を推進し、フリーWi-Fiと観光アプリによる回遊促進、行楽シーズンの慢性的な交通渋滞解消に向けた警備業務の強化と駐車場情報の適切な提供、手書き地図の作製による地域資源の再発見・再評価及び「よしみち」の促進、レインツアリズムによる誘客促進・滞在時間の延長、観光行事やイベントの充実・強化(四季を通じた誘客促進)、外国人観光客の受入体制の整備に取り組みます。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	観光行事・イベント	20イベント実施	20イベント実施	20イベント実施	
	外国人受入体制の充実	多言語観光パンフ作成 外国語案内業務実施	多言語観光パンフ作成 外国語案内業務実施	多言語観光パンフ作成 外国語案内業務実施	
駐車場・渋滞対策	満空表示の設置 行楽シーズンに臨時駐車場を設置 シャトルバス運行	行楽シーズンに臨時駐車場を設置 シャトルバス運行	行楽シーズンに臨時駐車場を設置 シャトルバス運行 高速道路高架下駐車場設計		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	大山・日向地区の入込観光客数	111万人 (平成28年度)	115万人	117万人	119万人



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	県内第4の国際観光地の創出を目指す取組である平成大山講プロジェクトに位置付けられている各種事業を効果的に展開していくことで、大山、日向地域をはじめとする本市の魅力的な観光資源の情報発信を図り、入込観光客数及び観光消費額の増加に伴う地域の活性化に努めます。なお、各種事業の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断ならびに対応を図ります。				
実施方法 〔選択・記入〕	○すべて直接実施 ●左記以外				
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	(一社)伊勢原市観光協会等	
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先	旅館、飲食店、商店等	
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	観光行事・イベント	23イベント実施	25イベント実施	6イベント実施	
	外国人受入体制の充実	他言語観光パンフレット及びマップの作成、大山インフォメーションセンター外国語案内業の実施	他言語パンフレット等の作成、外国語案内業務の実施	他言語観光パンフレット及び登山マップの作製	
駐車場・渋滞対策	満空表示板の設置、多客期における臨時駐車場を設置及びシャトルバス運行の実施	市営大山駐車場満空表示板の運用、臨時駐車場の設置等	市営大山駐車場満空表示板の運用、臨時駐車場の設置等		
実施した取組の内容	登山道修繕、観光地警備案内委託業務、多客期における臨時駐車場設置等受入環境整備事業などを実施しました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
	大山・日向地区の入込観光客数	111万人 (平成28年度)	115万人	115万人	99万人

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	事業費合計 (a)		26,765	千円	12,934	千円	9,494	千円						
	内訳	国県支出金 ①	16,518	千円	3,370	千円								
		地方債 ②	0	千円	0	千円								
		その他特財 ③	0	千円	0	千円								
		一般財源 (a)-①-②-③	10,247	千円	9,564	千円	9,494	千円						
	国県支出金の内容													
	その他特財の内容	受益者負担	○有 ●無		前回の改定時期									
		その他												
	人件費	正規職員	1.18	人	10,042	千円	1.02	人	8,874	千円	0.89	人	7,654	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	1.18	人	10,042	千円	1.02	人	8,874	千円	0.89	人	7,654	千円
	トータルコスト (a)+(b)		36,807	千円	21,808	千円	17,148	千円						
	単位当たりコスト	対象数	定義		大山・日向地区観光客数	単位	大山・日向地区観光客数	単位	大山・日向地区観光客数	単位				
			対象数		1,150,190	人	1,153,261	人	996,094	人				
		総事業費／対象数		32	円	19	円	17	円					

評 価 (Check)				
進捗状況 [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input checked="" type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	C	左記判断理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、大山・日向地区の入込観光客数が減少し、目標値を下回りました。また、県の観光の核づくり推進補助金を活用した事業についても、コロナの感染状況を鑑み、取り下げとしました。
実施水準 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	県が進める観光の核づくり事業に、大山地域(伊勢原、秦野、厚木の3市連携)、三浦市、大磯町の3地域が認定されています。当該事業については、県内第4の国際観光地を創出する取組としてのインバウンド対策事業の推進など他市より高い水準での観光施策に取り組んでいるものと考えます。
有効性 [選択・記入]	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド需要が大幅に減少したことから、県内第4の国際観光地の創出を目的とした平成大山講プロジェクトの対象2事業を取り止めるとともに、大山・日向地域において開催予定であった各種観光誘客イベントを中止又は延期としました。
効率性 [選択・記入]	<input type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である(C)	B	左記判断理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者が減少し、目標の達成には至りませんでした。感染状況を慎重に見極めた上で各種観光施策の実施判断を行い、コスト実績を意識した効率的な事業運営に努めました。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
事業推進上の課題	近年の登山をはじめとするアウトドア需要の高まりや伊勢原大山インターチェンジの開通に伴うアクセスの飛躍的な向上を受けて、コロナ禍においても紅葉期間等の多客期においては、依然として慢性的な交通渋滞が発生するなど、受入態勢の更なる強化が必要となります。また、令和2年度より県補助金の補助率が従前の100%から50%に変更となったため、更なる効果的な取組の推進が必要となります。
令和3年度の取組方針	県の補助金を活用した平成大山講プロジェクト事業の一環である人流データ分析・活用事業を推進し、コロナ禍で変容した観光客の周遊動向を遠隔収集にて把握・分析することで、ウィズコロナ・アフターコロナ期に対応した新たな観光施策の企画立案への活用を目指します。なお、その他事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断及び対応を図ります。
所管部長による総評	本事業の実施にあたっては、国や県の補助金・交付金等を積極的に活用しながら進めていくものとし、多様化する観光客ニーズの把握及びコロナ収束後の反転攻勢を見据えた事業推進体制の再構築を図ることで、更なる魅力の発信及びホスピタリティの向上に伴う地域の活性化に繋がるものと考えます。なお、各種取組の執行にあたっては、庁内横断組織である「連携・連動推進チーム」による協力体制も活用しながら取り組んでいきます。